

いきいき健康外来 休止のお知らせ

歴史は繰り返す、韻を踏んで。 およそ百年前に流行した「スペイン風邪」、その終息までに3年の月日を要しました。 今回のコロナも、同じ道を辿っているようです。

発生当初は「どうなることか!」と、思われていた新型コロナも、今では全国津々浦々にまで行きわたり、日本民族は一定の「集団免疫」を獲得したと思われます。 今後は小流行を繰り返しながら、「土着の」カゼのひとつとして根付いていくものと思われます。

さて、令和2年4月20日に「いきいき健康外来」を開設して早や3年半が経ちました。 物理的に「発熱者」と「非発熱者」を分けるこの対応策。 附設の「発熱ブース」までも動員した、2年前の夏のデルタ型の流行をピークに、役割をしっかりと果たしてくれました。

昨年夏と冬のオミクロン株の流行のときには、当院の診療能力キャパを遥かに超える患者さんが押し寄せ、こちらの対応が後手後手に回ってしまい、たいへんご迷惑をお掛け致しました。

診療にあたっては、医療の質を落とさないこと、コロナに隠れた「コロナ以外の」重大な病気を見逃さないこと。 地域医療の第一線で働いている臨床医の矜持として、ここを担保するためには、当時の受診制限はやむを得ない措置であったこと、ご理解ください。

今回のコロナ禍3年の経験で、一診療所レベルで、何を優先順位の上位にあげて、診療を行なうべきか? 限られた職員を過剰に疲弊させること無く、医療資源をどのように有効かつ効率的に運用するか? おぼろげながら掴んだ気がいたします。

感染対策は、やり出したらキリがありません。 今回の貴重な試みを踏まえて、次に来るであろう、新たな病気のパンデミックに備えたいと思っております。 なお、「いきいき健康外来」は、休止であって、廃止ではありません。 残念ながら、いつの日かその「出番」が来たときには、速やかに再開いたします。

なお、定期受診されている方・検診希望者・ワクチン希望者は、優先的に診察しますので、ご遠慮なく受付にてお声掛けくださいませ。

令和5年10月1日
いきいき健康外来 休止にあたって
院長 谷崎俊哉